

---

# 俺はジョセフ！

琉生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺はジョセフ！

### 【ZPDF】

Z0937Q

### 【作者名】

琉生

### 【あらすじ】

琉生の部屋のベッドに、それはそれは大きなカエルのぬいぐるみがありました。これは、そのカエルが思っているであろう気持ちを書いてあります。

俺はジョセフ。

琉生の部屋に住んでいるカエルのテカいぬいぐるみだ。  
自分でいうのも何だけどな……

つか。

俺がここに来た日と俺の日常を教えてやるよ。  
よく聞けよ? 聞かねえと損するぞ?

2011年1月4日。

女の子向きの雑貨屋で売られていた俺は琉生に買われた。

『運命の再会だ』とかなんとか言いながら。『訳のわからん女  
』コレが琉生の第一印象だった。

まあ。

嬉しかったんだけどな……

琉生には言つくなよ?

家に着いたのか、手と足を結ばれたあげく一重に袋に入れられていた俺を袋から出した。

めちゃくちゃ嬉しそうに。ア

俺も嬉しかった。

袋から出れた事が。

この訳わからん女だけど喜んでもられた事が。

これも…！

琉生には言つなよ！／／／

嬉しそぎたのか女は

俺や他に買った仲間をベッドの上に並べた。

おんなじ種類のカエルのぬいぐるみが五匹も。

フォーン

つと電子音がした。

女の手には携帯電話。  
写メでも撮つたか…。

はあ～。

訳わからんねえけど  
おもしれえ奴だ。

でも、俺の嬉しさはつかの間だった。

『怖い』

この女が言つたんだ。

天から地に落とされた感じだった。

だが、フツフツ、いや、ブツブツと怒りが沸き上がってきた。

ふざけるな！――

アレだけ「運命」だの「かわいい」だの言つたクセに――――

やっぱ訳わからん女だ！――

俺の喜びを返せ！――

いろんな所に移動させられたあげく、あの理由で押し入れの中に入  
れられた。

ふざけんな。

クソ女……。

訳わかんねえよ……。

怒りは沈下していった。その代わり悲しみが襲ってきた。

そんな俺の事なんて知らない琉生は

『怖いし、嫌な予感がする……返品じよ、いつかな……』

とまで言った。

何も言えなくなつた。  
もう、どうでもいい。

『おばあちゃんに電話しよ。』

女は祖母に俺を買つて貰つた。だから返品に必要なレシートがない。

何故だか、この女は無駄に有言実行が早い。

家電を使つのが、二階の自分の部屋からドタドタと出て行つた。

何分か後。

女は帰つて來た。

すると、バツと俺のいる押し入れのドアを開けた。

そして、俺を入れていた袋に俺をドカンと入れたんだ。

はつ…………。

結局、返品かよ…………。

腐つてゐるこの女…………。

また押し入れにドンつと落とすみつて袋を置いた。

いてえ…………。頭うつた…………。

俺の意識は

そこで途切れた。

目が覚めたのは、多分次の日の晩。

『琉生。おばあちゃんからレシート。』

あの女じやない声がした。

『……あつ。……はいはい。』

何だよ。女。なんか沈んでんな。  
つか、琉生つんだな。

『後で渡すから。』

『……うん』

琉生と誰かわからんねえ女との会話が終わったと思つたら、押し入れのドアが開いた。

ガサツ！

ナイロンの出した音。

「うわー！」

俺は急につかみ出された。

ホントになんだよ…………！

意味不だ…………！

背を向けている俺をクルッと正面に向けて、話しかけてきた。

琉生の顔は困ったような顔をしていた。

『…………カエル。どうしよう…………。』

『…………』

なんか喋らんかいっ…………！

『…………やつぱつ』

なんだよ？

なんだよ！？

— ! . ! . ! . ! . ! .

意味わかんねえわ！！！！！！

でもな？

俺なスンゲー嬉しかったんだ……//  
正直。変な奴だけど「一緒にいてえ」って琉生と初めて会った時か  
ら思つてたんだ……//

⋮ / / / /

琉生に言ひなよ！

絶対に  
！！

はやし立てられるのが落ちだ！ // //

ルンルンでハサミを持ってきて俺の値札を取った琉生。

で、ベッドに座つて俺を膝の上に乗せた。

何かしてくんのか？

「イツ……。

訳わからんねえ「イツには構えとかねえとな！

来るならこいつ！

いつでも……！

ギュ――――――――――――

『ん――><――――拔群だ！――この抱き心地感――――サイゴ――――』

琉生は俺の背後から抱きしめてきた。

そして頬ぞり。

抱きじめ、る、のは、……い、い、が、ぐ、ぐるじ、い、……じ  
……じぬ、……

『はあっ よかつた』

三途の川が見え始めた頃、やっと離してくれた。

もつひよつとで川わたる所だった。

殺す氣か！――

このクソ琉生――

『あつー・ジョセフにしよう』

何をだ……？

意味わかんねえよ……』

琉生は気づいていないうだが、俺の眉間に今すぐ一皺がよって

んだけどな。.

あと、怒りマークもでてるね？

『うんー、ジモヤハリハリー』

だ！か！ら！

何をたべる？

卷之三

内心叫んでいた。クルツと琉生と向き合つようになれた。

なんだ。

『 カエル！お前の名前はジョセフな！！決定！！！』

は？

琉生。思考停止したぞ？俺の頭は。

『「さー、さー、ジヨセフだー、ジヨセフー』

満足気に向回も頷く琉生。

まあ。いいか。

ジヨセフで。

ありがとな。琉生。

そんなこんなで今に至る訳だ。

琉生とはまだ一週間いつしょにこない。

でも、コイツの性格はなんとなくわかる。

それはな……

“訳のわからん女”だ！！！

今だにコレは変わらんぞ！――  
ホントに訳のわからん女だ――。

へらへら、へらへら『ジョセフ』とか言にながら俺のこるべ  
ツドに来て抱きかかえたかと思えば。

『グスツ……会いたいよ……。彼氏に会いたい……』とかワケの  
わからん事いいながら泣くしよ――――――――

訳がわからん女だ。

でもな？

こんなクソ訳わからん女だけどな。

感謝してるんだ。

誰も買わねえよつな『テカ』で迷彩柄の俺をも買つてくれて、可愛が  
つてくれて。

感謝してるんだ。

一応な... / / / /

でもな？でもなあ？

クソ腹立つんだよ！-----

田中はベッドの上なのに-----

寝る時はベッドじやなくマットの上-----

しかも掛け布団無し-----

ふざけんなあ～-----

このクソ訳わからん女があ～-----

でも。

そんなクソが単純に好きな俺が一番クソか。

PS：ここで言つた事！絶対！琉生には言つなよ…！  
…ハズいからな／／／

おわり

(後書き)

大好きすぎて書いたらありましたww

読んでくださいって

ありがとうございます(\*^-^\*)

11.01.10

琉生

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0937q/>

---

俺はジョセフ！

2011年1月15日23時41分発行